

鑑賞 暮らしを心豊かにするデザインの力

概要	身の回りの文具など、毎日の暮らしの中で使っているものにあらためて目を向け、デザインの役割や働きについて考える。 ・掲載図版を鑑賞し、それらの機能や用途、どのように工夫されているかなどを考える。 ・学校や家庭など身の回りにあるものに目を向け、それらのよさや美しさ、機能や工夫などについて話し合う。(グループ) ・誰もが心豊かに暮らせるようによりよく工夫・改善するデザインの役割について考える。 ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザイン、サスティナブルデザインなど
評価規準	知 形や色彩、材料などの性質や造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えていることを理解している。 鑑 使う目的や機能と美しさの調和などを感じ取り、表現の意図や工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。 態度 主体的に使う目的や機能と美しさの調和などを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考える鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【美術資料の活用】



生活のデザイン P.152・153



暮らしの中の色 P.8・9

デザインというと、形や色の美しさに目を向けがちである。しかし、私たちが毎日の暮らしの中で使用するもののデザインの鑑賞では、形や色のみならず、誰が、どのように使うのかなど、そのものとそれを使用する具体的な場面との関係に目を向けて考えることが求められる。

さらに、鑑賞の題材であっても、**P.28・29** 発想し、構想を練る2や **P.30・31** 構想を形になどを参考に、目的や条件を形にするための過程としての「デザインのプロセス」を知るとともに、デザインした人が「誰(何)のために」「どのような工夫」をしているのかなど、つくり手の立場からデザインについて考えてみることも大切である。

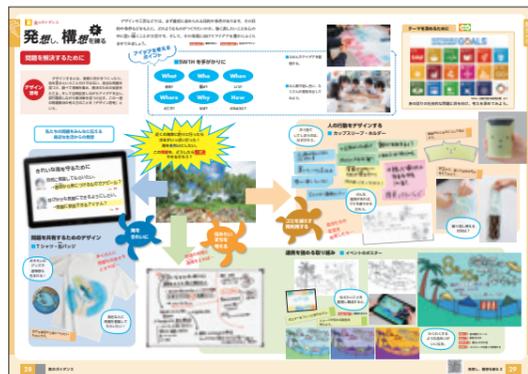
思考力
判断力
表現力

身の回りの文具などは、使いやすくするためにどのような工夫がされているのか？ 私たちの生活の中での、デザインの役割や働きとは？

ユニバーサルデザインなど、誰もが心豊かに暮らせるようによりよく工夫・改善するデザインの役割を考えると、**P.8・9** 暮らしの中の色は、生徒が毎日の生活と関わらせて考える切り口として参照させたい。また、「分かりやすく伝える働き(機能的役割)」や「安全と色」、さらに **P.93** UD (ユニバーサルデザイン) フォントなどは、「共通事項」の「形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。」につながる大切なポイントでもある。

知識

身の回りにある製品の形や色は、使う人にどのような心理的な影響を与えているのか？



発想し、構想を練る2 P.28・29



構想を形に P.30・31

■学習の流れ

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 10分	○ P.152 〔切る〕〔にぎる〕の図版(製品)を鑑賞し、どのような工夫が施されているか考え、ワークシートに記入する。 ○ 何人かにワークシートに記入した事を発表する。	○ 生徒が持っているハサミなどの文具を参照させることもできる。 ○ 発表の内容から、使う人や場面などにも目を向けさせるなど、学習の視点を明確にする。	鑑 鑑	【発言・活動の様子】
展開 20分	○ P.153 求められるデザインを参考に ■ユニバーサルデザイン ■インクルーシブデザイン ■サスティナブルデザイン などの考え方について知る。 掲載された図版(製品)それぞれの特徴や美しさについて、造形的な視点①形や色彩、②材料や素材、③仕組みや構造)で考えワークシートに記入する。 ○ それぞれの特徴や美しさが、どのような場面で、どんな使いやすさにつながっているか考える。	○ 用語の理解だけでなく、自分たちの生活との関わりについて考えさせる。 ○ 人権教育の視点からも、生活や社会の中のデザインの役割や働きについて、気付けるようにする。 ○ P.28・29 発想し、構想を練る2や P.30・31 構想を形になどを参照させ、デザインした人が「誰(何)のために」「どのような工夫」をしているのかなどに気付かせるように指導する。	鑑 知 鑑	【ワークシートの記述】 ・造形的な視点の①については、 P.8・9 暮らしの中の色などを参照し、色の機能的役割にも目を向けさせたい。 【ワークシートの記述】
まとめ 20分	○ グループごとにワークシートに記入した内容を発表するとともに、自分たちの生活の中でデザインは、どのような役割や働きをもっているか意見交換する。 ○ クラス全体でデザインの役割や働きについて意見交換する。	○ デザインをした人の思いを想像したり、身の回りにある多くの製品を想起したりさせながら、デザインの役割や働きを確認できるようにする。	鑑 鑑	【発言・活動の様子】 【ワークシートの記述】

■発展学習 (導入・まとめを含め1時間)

段階	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
展開	○ グループに分かれる(6グループ程度。)工業製品を実際に使い、そのよさや改善すべき点などについてグループで検討しワークシートに記入する。 ・ 実際に使って鑑賞する工業製品 美術室や学校にある電気製品や家庭用品(電動工具、ドライヤー、調理器具、電気ポットなど)。 ・ 10分ごとに鑑賞する工業製品を取り替えて鑑賞を繰り返す。(1時間で全てのグループが3~4種類の工業製品の鑑賞ができるようにする。)	○ 見て鑑賞するだけでなく、実際に使用する場面を想定し、スイッチやレバーなどを操作して使い勝手なども実感的に確かめてみる。 ○ 安全性についても考えさせる。誤動作を未然に防ぐために、2段階の操作が必要になるなど、意図的に使いにくくしてあることなどにも気付かせる。 ○ P.30 目的や機能を形にするデザインを参考に、「使いにくい」と感じられる点については、問題を指摘するだけでなく、その改善案の提案についても考えさせたい。	鑑 鑑 知	【発言・意見交換の内容】 【ワークシートの記述】 ・ 他教科の先生方にも協力していただき、他教科で使用する工業製品なども活用すると鑑賞の幅が広がる。

■ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い

ユニバーサルデザインとは、みんなにやさしいデザインという意味で、ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター所長であったロナルド・メイス氏が1985年に正式に提唱した、バリアフリー概念の発展形にあたるものです。「できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること」を基本コンセプトとし、デザイン対象を障がい者に限定していない点が一般に言われる「バリアフリー」とは異なります。

P.9 カラーユニバーサルデザイン

P.93 UD (ユニバーサルデザイン) フォント

■ユニバーサルデザインの7原則

ロナルド・メイス氏の提唱するユニバーサルデザインは、下記の7つの原則で構成されています。

- 1 誰にでも公平に利用できる「公平性」
- 2 使う上での自由度が高い「自由度」
- 3 使い方が簡単ですぐに分かる「単純性」
- 4 必要な情報がすぐに分かる「明確さ」
- 5 うっかりミスや危険につながらない「安全性」
- 6 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できる「体への負担の少なさ」
- 7 アクセスしやすい(近付きやすい)スペースと大きさを確保する「空間性」